

化石研 ニュース

148 2023/4/23

編集・発行：化石研究会事務局
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第41回(通算第157回) 化石研究会総会・学術大会 山形大会プログラム

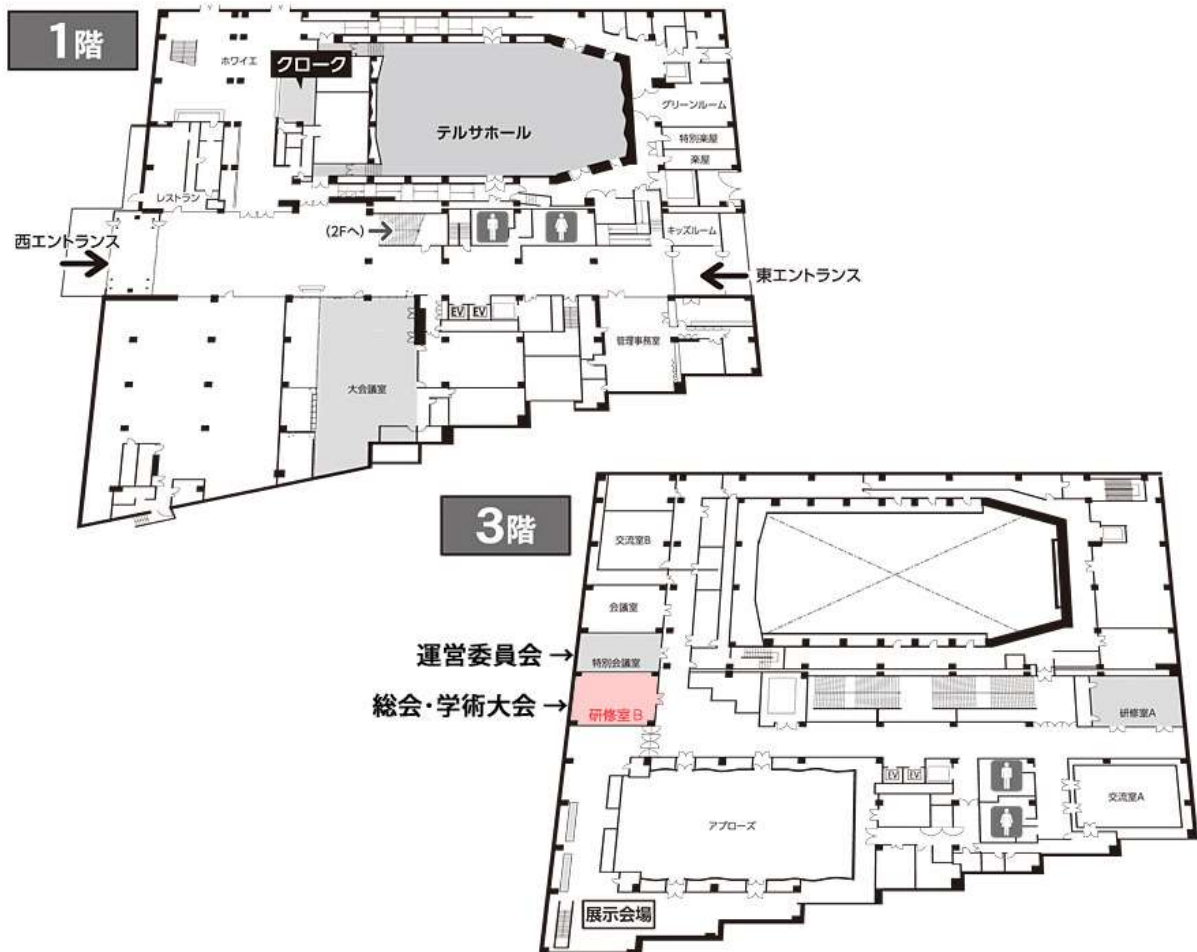
化石研究会の第41回(通算第157回)総会・学術大会のプログラムをお知らせいたします。本会の開催は山形県立博物館の長澤一雄会員にお世話していただきます。シンポジウム・総会・一般講演・山形県立博物館の見学と盛りだくさんな計画となっています。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- 日 時：2023年6月3日(土) 13:00~17:00
2023年6月4日(日) 9:15~15:30
- 会 場：山形テルサ 3階 研修室B 〒990-0828 山形県山形市双葉町1丁目2-3
(TEL: 023-646-6677) JR 山形駅西口から徒歩10分(歩道をご利用ください)
案内図は、2ページをご覧ください。
- 主 催：化石研究会(世話人 長澤一雄 会員)
- 後 援：山形県立博物館
- 日 程：以下のとおり。
6月3日(土)
13:00~17:00 シンポジウム「東北・北海道の鯨類化石研究の現在と展望」
詳細は3ページご覧ください。
17:30~19:30 懇親会
6月4日(日)
9:15~11:25 一般講演
11:35~12:30 総会
14:00~15:30 博物館見学
- 参加費：一般；1000円、学生；500円
- 懇親会：5000円 霞城セントラル1F「いのこ家^{やまがただ}山形田」(予定)
申込み方法：石田 吉明 会員あてに電子メール(y-ishida@msi.biglobe.ne.jp)で
申込み締切り：5月15日(金)まで

総会・学術大会 会場案内



山形テルサ



シンポジウム

「東北・北海道の鯨類化石研究の現在と展望」

6月3日(土) 13:00～17:00

13:00～13:05 会長挨拶 三島 弘幸

13:05～13:15 世話人挨拶 長澤一雄 (山形県立博物館)

東北・北海道全体の話 (1, 2 座長 一島啓人)

13:15～13:40 講演1 田中嘉寛 (大阪市立自然史博物館)

「東北・北海道から世界へ 鯨類化石研究の最近」

鯨類の歴史は、始新世に水中生活への適応がおり、漸新世以降は、ハクジラ類はエコロケーションを行い「音で見る」、ヒゲクジラ類はオキアミのような小さなエサを大量に「こしとる」など、特殊化がはなはだしい系統も現れました。日本における鯨類化石研究も進んでおり、北海道からは新種の鯨類が報告され、山形県から見つかった化石も分布情報など情報を追加しています。本発表では、最近の東北や北海道の鯨類化石の研究をご紹介します。

13:40～14:05 講演2 村上瑞季 (秀明大学)

「東北・北海道の鯨類化石相の変遷と山形県戸沢村産アカボウクジラ類化石」

東北・北海道地方の後期漸新世以降の地層からは鯨類化石が多産する。特に中期中新世以降では、幅広い地域から多様な分類群が見つかっており、21世紀に入る頃から新種として記載されたものも多い。こうしたことから、ある程度連続した時空間分布で鯨類化石の動物相の変遷を捉えることができる。本講演では東北・北海道地方の鯨類化石相の変遷を他地域のものと比較するとともに、山形県戸沢村産のアカボウクジラ類化石について紹介する。

東北の具体例 (3, 4 座長 木村敏之)

14:05～14:30 講演3 長澤一雄 (山形県立博物館)・渡部 晟 (元秋田県立博物館)

「山形県の鯨類化石相と秋田県男鹿半島の中部中新統の鯨類化石群」

山形県の鯨類化石は、マムログワクジラ化石をはじめとして新庄盆地の上部中新統～下部鮮新統から多産する。化石はヒゲ鯨類が多いが、遊離した異地性の断片骨が多い。化石の堆積は、内湾の古環境の変動が関係するだろう。秋田県男鹿半島の鶴ノ崎海岸の波食台 (中部中新統) では多数の巨大コンクリーションが露出するが、内部にしばしば大型鯨類骨を中心核として包含する。鯨類化石の量は膨大であり、また当時の最大級の鯨類を含む。

14:30～14:55 講演4 大石雅之 (岩手県立博物館研究協力員・東北大学総合学術博物館協力研究員)

「北上低地帯と関連地域の鯨類相」

北上低地帯の竜の口層 (最上部中新統～下部鮮新統) 産ヒゲクジラ類化石 *Herpetocetus* と *Burtinopsis* に関する研究は、演者により2010年に一定の成果を得た。しかし、2011年の震災等の困難で印刷出版に至らぬうちに、周囲の研究環境が大きく変化した。特に *Burtinopsis* を含

むナガスクジラ上科では、2010 年以降に欧米等で多くの新属新種が提唱されてきた。これらを背景に、北上低地帯から後期新生代の鯨類相の理解を進める。

14:55～15:10 休憩

北海道全体の話（5, 6, 7 座長 村上瑞季）

15:10～15:35 講演5 一島啓人（福井県立恐竜博物館）

「北海道の化石鯨類相」

北海道からは上部漸新統から更新統にわたり、様々な種類の鯨類化石が産出する。これまでにハクジラ・ヒゲクジラ両亜目ではほぼ同数の標本が知られており、記載論文に限らず自治体の報告書や学会報告などで分類学的位置付けが明らかなものも含めれば、科レベルで11に上る。中でもネズミイルカ科（*Neophocaena* を除く）やイッカク科は国内では北海道固有のもので、鯨類古生物学的にも重要な位置づけにある。本件では、進化生態学上の解釈に関わる上記2科を扱う。

北海道の具体例

15:35～16:00 講演6 木村敏之（群馬県立自然史博物館）・古沢 仁（札幌市博物館活動センター）

「札幌市の上部中新統産のセミクジラ類化石とセミクジラ類の進化」

北海道札幌市小金湯に分布する中新統小樽内川層よりセミクジラ類化石が発見された。この化石は札幌市博物館活動センターを中心として市民ボランティアなどの協力のもとに発掘・クリーニング作業が行われた結果、頭蓋を含むほぼ全身が保存されていることが明らかとなった。セミクジラ類の化石記録は鮮新統以降に集中しており、中新統産の化石は非常に限られる。さらに本標本は頬骨突起における頭蓋幅が2m以上と大型であり、セミクジラ類の進化を議論する上でも興味深い。

画像解析

16:00～16:25 講演7 新村龍也（足寄動物化石博物館）・古沢 仁（札幌市博物館活動センター）

「3DCG技術をクジラの復元に活用する」

3D技術は化石の研究や復元において一般的な技術となっており、特に大きさと重さから扱いづらい超大型の標本に活用するメリットは大きい。本講演では、北海道札幌市から産出した超大型のセミクジラ科化石を例に3D技術の活用例を紹介する。また3D技術は化石の変形の補正に活用が期待されるが、無償の3DCGソフトを用いた簡易的な変形補正についてもあわせて紹介する。

16:25～16:30 休憩

16:30～17:00 総合討論（座長 長澤一雄）

懇親会 霞城セントラル1F「いのこ家 山形田」(予定)

6月3日(土) 17:30～19:30

事前申し込み (p.1 参照)。懇親会場では十分な感染対策をしています。参加者におかれましても健康管理に御留意下さい。当日は体温を計測させていただきます。

一般講演

(口頭発表・ポスター発表 15分)

6月4日(日) 9:15~12:25

口頭発表

9:15 - 9:30 O1. 根本直樹・中村冬弥・畳指祥子・脇田昌英
青森県むつ市関根浜港における現生底生有孔虫の季節変動

9:30 - 9:45 O2. 瀬戸大暉
本邦産 *Laevicardium shiobarensense* (Yokoyama) シオバラザルガイの産出記録

9:45 - 10:00 O3. 平山 廉
岩手県野田村の久慈層群国丹層(後期白亜紀)より産出したカメ類化石: 予察的報告

10:00 - 10:15 O4. 石丸一男
仙台市の竜の口層から産出したカワイルカ化石の特徴について

休憩 10:15-10:25

10:25 - 10:40 O5. 安野敏勝・小寺春人
中新世のコイ科魚類コウレンの咽頭歯化石に関する研究

10:40 - 10:55 O6. 笹川一郎
条鰭魚類ガーでの鱗ガノイン形成の特徴

10:55 - 11:10 O7. 三島弘幸・大熊理紗子・千葉敏江・見明康雄
イヌ縁上歯石の組織構造の解析—ヒト縁上歯性との比較検討—

ポスター発表

11:10 - 11:25 P1. 柴 正博
陸橋による生物地理—海水準上昇と陸生動物の分布

休憩 11:25—11:35

総会 11:35—12:30

山形県立博物館見学

案内: 長澤一雄 (山形県立博物館)

6月4日(日) 14:00~15:30

6月3-4日 会場で受付, 山形県立博物館前 14:00 集合

運営委員会の開催について

役員の方はご出席ください。

日時：6月3日（土） 10:00～12:00

場所：山形テルサ特別会議室

>>> 事務局だより <<<

- 当会会費は「前納制」となっています。未納の会員は、ゆうちょ銀行の払込取扱票を使って、2023年度分の会費（一般4,000円、学生2,000円）を納入してください。
- この化石研ニュースを、現在、郵送で受け取られている会員の方で、電子メールでの受け取りが可能な会員は、メールアドレスをご連絡ください。ニュース発行時に電子メールでお送りします。費用と労力の削減のために是非とも御協力ください。
- 会誌やニュースの送付先（ご自宅、勤務先）が変更となった際には、事務局までご一報ください。
- 会誌への投稿をお願いいたします。原稿はかならず電子媒体（word ファイル（.docx）・画像ファイル（.jpg など））を用いて、電子メール添付あるいはデータ便などのサービスを利用し、下記に送付してください。
化石研究会会誌編集委員会 E-mail : kasekiken.kaishi@gmail.com
詳しくは、化石研究会ホームページをご覧ください。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館
高桑祐司 気付

TEL: 0274-60-1200 FAX: 0274-60-1250 E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ゆうちょ銀行振替口座 口座記号 00100-7 口座番号 633288 加入者名 化石研究会

ウェブページ <http://kasekiken.jp/>

化石研ニュースは、上記の化石研究会のウェブページでも見るができます。
前号までのニュースも掲載しています。